

J O M A 通 信

1978. 4. 15 №13

海外宣教連絡協力会公報
Japan Overseas Missions
Association

発行者 海外宣教連絡協力会役員会
編集者 古山洋右

事務局 八尾市高美町4-78 〒581 TEL 0729-91-9218

インドネシア宣教協力会内 海外宣教連絡協力会

海外宣教団体全体集会

発題講演要約

竿代忠一

「世界宣教と日本の教会」

マタイ20・1-16

今日、宣教の曲り角だとか、宣教の壁だとか云われている時代に生きる私たちのために、神様がバアルにひざをかきぬき七千人を残しておられることを覚えて聖名を讃美します。

この画期的とも云うべき海外宣教団体全体集会において、発題講演をさせていたゞくことに恐れとおのゝきを感じています。願わくは、これを基点として、更に関係諸団体の指導者の皆様にご批判をいたゞいたり、発展をさせていたゞいて、共に色々な分野を考えていくよすがともなればと存じます。

「世界宣教と日本の教会」という主題の「と」の意味を先づ考える必要があると思います。一体このとは、対等の位置づけを指すのか、それとも世界宣教の潮流の唯中にある日本の教会という意味なのか、あるいは、長い宣教の流れに対して、日本の教会として是正すべき立場があるということなのか、結論を出すのはむづかしい様です。

いずれにもあれ、こうした要素を含めて、大別して三つの表題の下に考えていきたいと思っています。

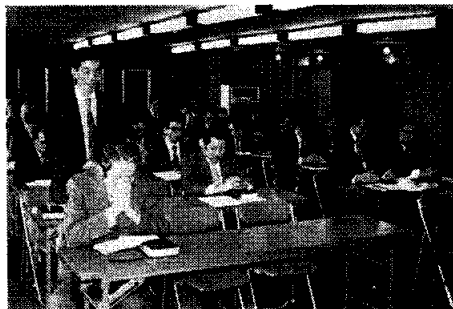
- 一、世界宣教の潮流（過去）
- 二、過渡期にある世界宣教（現在）
- 三、世界宣教と日本の教会（展望）

一、世界宣教の潮流

(一)ロバート・グローバーの宣教の定義

「キリストの命令に従って、いずこにあってても未だ回心せざる者に福音を宣べ伝える」この簡単な古典的定義の中に宣教の根拠・範囲・対象・使命が明示されています。世界は私たちの教区であり、便宜上、立場上、現在は今おかれている場所で伝道していても、常に世界大の働きを指向していかなければなりません。

全世界の未だ回心せざる者—いまわのきわまで信ずる可能性を持っている—が宣教の対象です。私達の福音宣教の使命は、最後の一人が救われまで終ることはあり得ないのです。



海外宣教団体全体集会
(熱海地塩園)

さらに宣教の方策、手段、目標を加えた、十全な定義が考えられてしかるべきでしょう。

(二) 宣教の歴史的潮流

過去の宣教の歴史をふり返ってみると、殉教の血が流された迫害の連続とも云うべき、第一期、第二期の宣教の時代、さらにすぐれた著名な宣教師が、主にヨーロッパを中心にして活動した第三期、第四期と、そして宗教改革期 — あえて宣教の文字を入れていない教理的論争の時代 — 、次に組織化された宣教の時代であった第六期、第七期と続いています。1792年を契機とする近代宣教の夜明けのとも云うべき時代であります。

とまれ、福音は、ユダヤ、サマリヤ、小アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、アジア、太平洋州へと広がってまいりました。

又、ユダヤ人中心に考えられてきた宣教がヨーロッパ人、英米人中心の宣教と変ってきつゝあると云うことも云えるでしょう。

22年程前、米国で開かれた宣教大会で、ライアンスの指導者の一人が語った言葉を忘れることが出来ません。宣教の中心がアジアに移りつゝあると云われたその言葉をうのみにすることは出来ないかも知れませんが、深く噛みしめるべき言葉でありましょう。

(三) 宣教の成果、一その広さ、深さ、長さ —

国家、国民を単位として考えてみる場合の福音の広がり、時代的な区分の中で、おしなべて云えることは、神がご自分の忠実な証し人を持っておられなかった時代はなかったということ、またその及ぼされた効果において、個人、社会、国家に深く浸透していった事実をあげることが出来ましよう。

二、過渡期における世界宣教

過渡期という言葉の意味を次のように考えることが出来ます。つまり、従来、宣教師派遣国が宣教師受入国に対して持っていた優位性が崩れつゝある時期という意味です。

これを六つの面から考えてみますと、

(一) 政治的に、植民地政策と結びついてなされていたようなところから独立後民族主義の抬頭や反西歐イコール反キリスト教の考え方によって情勢が全く変ってきている事実。

(二) 経済的に、第三世界の開発途上の国々の経済的な成長に伴う経済的優位性の変化。

(三) 教育的に、長い間の宣教の効果の一つとして教

育が進展してきたために、国家的な指導者が高度な教育水準を保つようになってきている現状。

(四) 社会的に、社会制度の全く違った土壌の中に入っていた初期の宣教の時代から、民主主義そのものが問われている時代に移り変わりつゝある状況。

(五) 倫理的に 倫理的に低い立場にあった人々に宣教師が聖書の水準を示していった時代から、キリスト教社会の倫理そのものが失われつゝある現実。

(六) 霊的に、宣教師の霊的水準の模範が最早被宣教地において必ずしも尊ばれなくなっている事実などに分けることが出来ます。

J・H・ケイン教授が、グローバーの定義に加えて、「すべての国々に霊的で、強力な、土着の教会を建設する」という定義を述べていることは、以上のような観点から見る時深い重い意味を持っていると思います。

土着の教会とは、自給、自治、自伝、そして自育の教会をあらわしていることとすることが出来るでしょう。自育とは、被宣教地における自立の神学校を建て上げる大切な働きが含まれている概念です。

三、世界宣教と日本の教会

さて、こゝで考えなければならないことは世界宣教の過去と現在をふまえて、日本の教会は過去を破壊的に批判するのではなく、また盲目的に追従するのではなく、建設的に批判することの出来る立場において、つまり、宣教師を迎えてきた被宣教地の経験を十二分に生かしながら、宣教師を派遣し、世界宣教のわざを推進していくべきであるということです。

換言すれば、謙虚さと確信と云うことでもあります。自からの小ささを十分わきまえることが必要です。欧米の宣教の先達たちの遺産を見る時、私たちは文句なしに脱帽せざるを得ません。

しかし同時に、私たちは、夕方の五時になって召された者であっても、まだ刈り入れが残されている以上、ユニークな立場において一房のブドウでも刈り入れる態度と姿勢をもって出て行くべきであります。

そこでいくつかの問題があります。

(一) 派遣者 派遣をするのは、使徒の働き13章に云われるようにあくまでも教会であります。宣教はそのまゝ教会の働きであり、それはオプショナルな問題ではなく、オブリゲーションであります。

「三つのこと」

井出定治

す。宣教の使命は教会にとって必然なのです。宣教の時機と計画も教会によって決定されます。教会の進展をわきまえながら、経済、人材その他様々な責務や指導の責任を負っていくのも教会であります。

こうしたことを考えていくならば、教会の責任はますます大きく広がっていくことを痛感するものであります。

(二)宣教師 本来に資格を持った宣教師であるならば、いつまでたっても宣教師の必要はあり続けるでしょう。そして(イ)宣教師召命のインシヤティブの問題 — 個人か教会か — (ロ)宣教師の審査の基準や過程の問題 — こゝでは宣教師の霊的生活の水準、指導者に対する服従などが問われてくるでしょう — が、宣教師を派遣し続ける限りそれに伴って起ってくるのです。

さらに(三)任地について ある地域に対しての特定の召命といったようなものがあるのか、それとも、何処へでも召されるならば出て行くべきなのか、あるいは、受身の宣教で良いのか、それとも能動的な宣教というものが有り得るのかと云った問題が考えられます。

(三)任地における宣教師の役割に関して 今後の効果的な宣教活動ということを考えるならば、当然鍵となる現地人の発掘養成という問題をバイパスしてはならないと思います。

宣教師の最大の責任は、指導者の訓練にあります。そして鍵となるべき現地人指導者が生み出されてくるならば、決して宣教師のモラトリアムなどという問題は起らないでしょう。

このような指導の出来る宣教師やミッションリー・ステーツメンを送り出すことも、今後の日本の教会に期待されているところではないでしょうか。

結論として、マタイ 20・7 「あなたがたもぶどう園に行きなさい」このもという言葉を強調して終らせていただきます。

刈り入れの主は、私たちにもチャレンジとチャンスを与えて下さるのです。

(筆者はインマヌエル総合伝道団

国外宣教局長

船橋インマヌエル教会 牧師)

文責は編集者にあります。

聖書を見ると、イスラエルの民は使命意識より特権意識ばかりが肥大し、しばしば失敗していることがわかります。

しかし、失敗の繰返しの歴史にもかかわらず、少なくとも世界宣教について、三つの点は明らかに示されているのではないかと思います。

第一は、使命の事実ということです。

「この地のすべての民が、御名を知り、あなたの民イスラエルと同じように、あなたを恐れるよになり……」(列上 8 43)といった祈りや預言は、歴史とのからみの中で数多く語られ、イスラエルの使命を明確に示しています。そしてこれが最もシャープな形で現れているのが「まして、わたしは、この大きな町ネベを惜しまないでいられようか……いるではないか」(ヨナ 4:11)の言葉でありましょう。

この語句の疑問の形は、私たちに對する神の問いかけであります。

第二は、使命に忠実にとどまるようにとのすゝめです。ヨナ書にはそこから逃避する姿が描かれていますが、この事件から「忠実さ」とは何か、具体的な事柄で考えてみると

- ①神の言われている事に正しく立つということ。
- ②メンツのようなものにかゝらないこと。
- ③誤りに気づいたら、直ちに立戻ること。

などが教えられます。これらの点は個人としても団体としても扱われなくてはならないでしょう。

第三は宣教の方法についての原理的な事柄です。イザヤ 42章・53章などはこの点に光を与えてくれます。

マルチン・ルターは、ホルムスの国会に向うとき、群衆の中から「男らしく……永遠のいのちがあります」との声に励まされたと言われます。名前さえ知らない多くの方々が、海外宣教に参加し、祈っていて下さいます。共々に伏し、謙虚に学びたいものです。

(筆者は 南米宣教会理事長)

南米宣教会

事務所 東京都世田谷区松原2-29-19
キリスト教朝顔教会内
電話 03-321-6722

最近ブラジルは、企業関係の進出国として脚光をあびてきていることは、皆様のご存知のとおりです。

しかし、日系人へのキリスト教伝道は、既に50余年になり、聖公会、ホーリネス、フリーメソ、ルーテル、アライアンス、その他の教団、教会が伝道活動をつづけています。

社会的には、日本語のわからない二、三世が第一線で活躍する時代になっており、日系の大臣が出るなどして、政治、教育、産業などの面で頭角を現わしつつあり、また昔から農業の発展に寄与してきた日本の移住者に対する尊敬は失われていません。

こうした中に、新移住者も、むかし程の数ではありませんが毎年送り出されています。

当然教会は、移住者に対する宣教と共に、二、三世の伝道に取組まなければなりません。しかし、日系人の中でも85%は二、三世であると言われるのに、この伝道の立ち遅れが目立つというのが実状のようです。

理由は、ポルトガル語の壁、コロニアの広域性、二、三世の都市集中化、伝道者不足などいくつかの事が問題点として考えられます。

近い将来、二、三世はブラジル国家の中核層となるわけですから、この伝道は緊急を要するといえます。

そのためには、二・三世伝道者の育成・青年クリスチャンの訓練、青少年プログラムの研究と実施など、なすべき事は多くあります。

移住者に対する伝道は、一世の高令化や教会の無牧化という問題をかゝえ、新移住者や企業関係の社員などへの伝道は、全くの手つかずといってよいかも知れません。

これに対しては、日本よりの牧師派遣、信徒伝道者の養成、広域性をカバー出来る文書伝道の具体化などが考えられます。

最近、EHCによる日本語のトラクトが出来上

り、日系教会が協力して配布したそうです。

ブラジルは、カトリックの国で、町はカトリック教会を中心に造られていて、どこに行ってもその影響の大きさが伺えるのですが、霊的な面では弱体化しており、教職者不足、信徒教育の不充分といったことから、目にみえる影響のわりには、霊的影響力は少なく、一種の精霊信仰のようなものが広がっています。

こうした中で、プロテスタント教会は、全体のパーセンテージは低いのですが、発展しつつあり、当然日系人教会も、二・三世伝道も多くの問題をかゝえつつ伝道の好機を迎えているといえます。

南米宣教会は、このブラジルに、中田智之宣教師一家を(1970)、そして最近(1977. 11)佐藤浩之宣教師一家を送り出しました。

中田師は、青年クリスチャンの訓練、二・三世伝道に力を注ぎながら、日系教会に協力してきましたが、佐藤師を迎えると共に、新しい地での開拓に移る予定です。佐藤師の第一期は、ポルトガル語の修得などが大切な課題ですが、ルージラモスの日本人教会をたすけつつ学び、現地の必要に正しく応えうる働きのために備えることになっています。



フィールド・サーベーター (その4) 中米・カリブ海諸国



A メキシコ 面積1,973,000平方キロ、人口54,300,000人、人口増加率3.5%
スペイン系10% 混血60% ラテン・アメリカではブラジルに次いで大きな人口を誇っている。

ローマ・カトリック 90%、プロテスタント2%、プロテスタントは100位の教派に分れていて、殆んどは、小さな教団にとどまっている。宣教師の人数は1,400人と非常に多いが、現地人教会の強化につながらないものもある。

以下BからHまで中米諸国を概観すると、

- B 英領ホンジュラス (人口 125,000人)
- C ガテマラ (人口5,400,000人)
- D ホンジュラス (人口2,900,000人)
- E エルサルバドル (人口3,700,000人)
- F ニカラグア (人口2,200,000人)
- G コスタリカ (人口1,900,000人)
- H パナマ (人口1,600,000人)

以上の国々には約18,000,000人の人々が住んでおり、人口増加率は毎年3.2%と非常に高い。スペイン系65%、インディオ31% ニグロ4%といったところである。政治はいつでも極めて不安定である。

宗教的には、ローマ・カトリックが96%と圧倒的である。プロテスタントは3.5%

“深みの伝道”はこれらの中米諸国で実験的に試みられて、ある程度の浸透を見たが、あまり長期的な効果をあげているところはないようである。教会の指導者養成のために祈ろう。

長くこれらの国々に宣教師を送ってきた宣教団体である、ラテンアメリカ宣教団は、その機構を改め、現地の指導者による共同体に変わりつつある。

I キューバ 面積115,000平方キロ 人口8,900,000人 ヨーロッパ系73% ニグロと混血26% 中国系1%

カストロによって共産主義が導入されてから(1959年)国民は貧困にあえいでいる。表面的には教会に対する弾圧はない。

ローマ・カトリック80% しかし実際の勢力はおとろえている。プロテスタント5%、福音派が割合に多い。ここ何年かの間、信者の数は堅実に成長している。

神学教育を受けることは容易ではない。キリスト教書店は閉鎖されている。文書伝道が問題である。

カナダやヨーロッパからの宣教師たちは、なおキューバの聖書学校などで働いている。

J ドミニカ 面積49,000平方キロ 人口4,600,000人 混血70% ニグロ15% スペイン系15% 米国の援助に全面的に依り頼んでいる。

ローマカトリック96% プロテスタント1.7% 福音派がプロテスタントの主流である。宣教師の数は155名であるが、1907年以来、この小さな国における働きはめざましいものがある。

K ハイチ 面積28,000平方キロ 人口5,500,000人 人口密度は非常に高い ニグロ90% 混血10%

最も貧困な国の一つである。文盲や疾病は大きな社会問題である。

ローマ・カトリック70% しかし、大部分は土着の宗教 - アフリカの祈禱師によってもたらされたもの - に影響されている。プロテスタント

海外宣教地域懇談会 広島地区 レポート 京阪神地区



(広島CLC)

JOMAが各地で主催する海外宣教地域懇談会は、既に東北(仙台)、四国(高松)などで行われてまいりましたが、1977年には、広島と大阪の二ヶ所で夫々開催されました。

9月26日 午後2時—8時半まで、広島クリスチャン文書伝道センターを会場に懇談会と宣教の夕べが持たれ、市内及び近郊の多くの教派から20数名の教職信徒が参加し有意義な語らいの時を持ちました。発題者は小宮山林也牧師と川合清治氏、夜の宣教の夕べ(出席者50名)の講師は小川国光宣教師でした。すばらしいチャレンジに満ちた集会となりました。

次いで、10月24日午後2時—8時半まで、大阪クリスチャンセンターを会場に京阪神地区の教職を招いて開かれた懇談会にも各教派から約25

名が参集、西本一雄師、小宮山林也師の発題をめぐって活潑な意見の交換がなされ、夜は再び小川国光宣教師の聖言からの力強いメッセージに感銘を深くさせられました。(夜の集会 50余名出席)

あなたの地域でも、海外宣教懇談会を持ちたいと願われませんか。

是非JOMA事務局へご一報下さい。ご相談に応じます!



(大阪クリスチャンセンター)

10% 福音的な信仰を持つ人たちの割合は多いが、サタンの支配下にある

L ジャマイカ 11,000平方キロ

人口2,100,000人 ニグロ77% 混血種20% ヨーロッパ系、中国系3% カトリック7% プロテスタント75% 200,000人のプロテスタントの大部分は名目的。両親の首尾一貫性を欠く生活を見ている若い人たちは教会に対して懐疑的である。日本からIGMの平位宣教師が現地の聖書学校で奉仕をしてこられた。

M プエルトリコ 面積9,200平方キロ

人口2,900,000人 人口密度一平方キロ当り320人と高率 米国の経済援助に依存している。カトリック85% プロテスタント10% 福

音的教会の進展には見るべきものがある。ニューヨークだけで500,000人のプエルトリコ人が居住している。彼等の生活は貧困と犯罪危機に直面している。

O トリニダト 面積5,100平方キロ

人口1,200,000人 ニグロ43% インディオ36% 混血16% 中国系3% ヨーロッパ系2% 石油を産出するので比較的裕福 カトリック88% ヒンズー教23% 回教8% プロテスタント30%

異教徒たちが多勢いるので福音に対して受容的でない。プロテスタントは名目的信者が多い。キリスト者大学生のための働きが効果的である。

国内ニュース

☆ アツセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

海外宣教部 JOMAに加盟

このたび、アツセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外宣教部(責任者 内村撒母耳師)では、JOMAに加盟を申請し、郵便投票の結果、加盟を承認されました。

アツセンブリーズ・オブ・ゴッド教団は、早くより海外宣教に目を開かれ、沖縄復帰前にはいち早く沖縄に宣教の手を伸ばし、又非公式にはあったが、ペルー伝道にも人材を送ったり、近くは、台湾、フィリピンに海外宣教部を通じて宣教師を派遣するなど、着実に海外宣教の働きを推進してきている教団です。

同教団のJOMA加盟により、現在JOMAに加盟する団体は、12団体(内教派団体は3団体)となりました。

なお、申請中のアンテオケ宣教会(責任者舟喜信師)の加入については、JOMA総会において審議の結果、認められる公算が大であります。同宣教会が加盟すると、JOMAは、13海外宣教団体(教派8、超教派10)による連合機関となるわけです。

☆ 海外宣教団体全体集會に19団体参加

いさゝか旧聞に属しますが、昨年11月22日、23日の2日間にわたり、熱海の地塩園を会場に、日本にある福音主義の海外宣教団体(教派・超教派を含む)の代表者による初の全体集會が開かれました。

これは、JOMAの主催によるものではなく、独立した準備委員会(竿代忠一、荒川三樹雄、芳賀正、鳥羽季義、古山洋右各師)によって計画が進められて来たのですが、蓋をあげてみたところ、正式に参加協力した団体が19団体あり、他に、個人の資格で参加した団体も2団体ありました。

以下に参加団体のリストを記します。(順不同) インマヌエル綜合伝道団国外宣教局アツセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部、日本同盟基督教団国外宣教委員会、日本イエス・キリスト教団海外宣教委員会、日本福音自由教会海外宣教委員会、福音交友会海外宣教委員会、東洋ローア・キリスト伝道教会海外宣教委員会、キリスト兄弟

団海外宣教部、アジア福音宣教会、宣教師金岡栄子を支援する会、太平洋放送協会海外電波宣教を支える会、南米宣教会、日本海外宣教会、地の果て宣教会、インドネシア宣教協力会、ウイクリップ聖書翻訳協会日本委員会、海外宣教交友会日本委員会、キリスト福音宣教会、アンテオケ宣教会—その他個人参加として、保守バプテスト同盟や宣教師訓練所(MTC)がありました。

第1日夜から始まった全体集會の主題は「世界宣教と日本の教会」で、竿代忠一師が全体講演発題を行いました。(JOMA通信今号の巻頭に要約を記載してあります)同師の講演は出席者に多くの感銘と示唆とを与えました。

2日目は、小グループに分れての禱告会が開かれ、日本から遣わされている宣教師や、宣教師の必要のため熱心な禱援が献げられ、さらに、4つのテーマについて分科会が開かれました。分科会のテーマは、①宣教師子弟の教育、②宣教師訓練、③宣教団体の運営、④地域教会と世界宣教で、当面する種々の問題について語り合われました。

午後には休暇帰国中の萬田公義、尾崎一夫、小栗宏子各宣教師の「宣教地を知るために」と題するフレッシュな報告もあり、短時間ではありましたが充実した2日間を過し得たことは感謝でした。

なお開会礼拝は井出定治師、閉会礼拝は若狭正一師が御用して下さいました。

何らかのかたちで、この全体集會の概略を知らせる印刷物を考慮中です。

☆ JOMA1978年総会終る

去る4月3日(月)午後2時—5時 お茶の水学生キリスト教会館を会場に、JOMAの新年度総会が開かれ、加盟12団体中10団体が参加しました。

新加盟団体としてアンテオケ宣教会が加盟を承認されましたので、これでJOMA加盟団体は13団体になりました。

総会の内容については後日さらに詳しく報告いたしますが、新年度事業の中に、海外宣教に関する指針となるような印刷物の出版や、新しいアップ・トゥー・デートなJOMA世界宣教地図の発行、セミナーの開催海外諸団体との交流などがあげられています。

諸経費高騰の折から会費も加盟団体月額3,000円から3,500円に値上げせざるを得なくなりました。JOMAの運営のため大方の献金にも期待するところ大です。読者の皆様の中からもどうぞ、覚えて御禱援下さると共に、継続的に御支援下さる方が起されますように。

北海道地区 JOMAの集い

—海外宣教を考える—

私はギリシヤ人にも、未開人にも、知識のある人にも、知識のない人にも返さなければならぬ負債を負っています。(ローマ1:14)

第一部 教会形成の中における海外宣教

= 海外宣教地域懇談会 =

日時：4月21日(金) PM1:30~PM5:00

会場：札幌北光教会301号室 ☎241-3614
(札幌市大通り西1丁目テレビ塔南)

〈発題者〉久保木 勤師(ナザレン札幌) 島田福安師(聖書学院) 石川秀和師(聖書福音札幌) 篠原康男師(札幌東)

〈プログラム〉発題と自由懇談の時を持ちます。

= 全て造られたものに福音を=

第二部

海外宣教の夕べ

= 宣教とチャレンジの集い =

日時：4月21日(金) PM6:30~8:15

会場：札幌北光教会301号室

〈プログラム〉賛美と証とメッセージ

講師 尾崎一夫先生(エクアドルHCJB宣教師)
古山洋右先生(JOMA専務理事)

主催 海外宣教連絡協力会(JOMA)

連絡先 札幌市白石区平和通り1丁目北104
☎862-9817

総主事デスクより

栄光在主、長らくご無沙汰しました。久し振りにJOMA通信がおめいえいたします。

これがお手元にとゞく頃には、北海道で初のJOMA主催 海外宣教地域懇談会が開かれていますことでしょう。

日本にある海外宣教団体が出来る限り協力し、援け合って、主の宣教の大命令を遂行していくために、さゝやかながら、JOMAの働きを主が用いて下さり、その実を結ばしめて下さるならば関係者としてこれに過ぐる喜びはありません。

今年も出版物の発行や、新しい宣教地図の発行に大いに意欲を燃やしていきたいと願っている次第です。

JOMAの目的と事業

—規約抜すい—

日本の福音的諸教会を背景とした宣教団体が共通の領域での協力をはかり、将来のさらに効果的な海外宣教のあり方を求めることを目的とする。

(一)諸教会の間に海外宣教についての理解が深められるための事業、および宣教団体の効果的な協力を促進するための事業を行う。

(二)宣教地、宣教団体とその活動、現代世界での福音陣営、歴史における福音陣営の位置づけなど、海外宣教に基本的な領域での研究調査を行う。

(三)会議、研究会、宣教大会などの開催によって会員相互および教会と宣教団体の実質的な交わりを深める。

以上でおわかりのように、JOMAの働きは、大変広く又深いものであります。

ところで基本的にはJOMAの活動は、加盟団体の会費(月額3,500円)でまかなわれるはずですが、何分にも諸費高騰の時代です。

海外宣教に重荷を持つ多くの教会団体、個人の愛の献金に負うところが大了。

示された方は、どうぞ、JOMA事務局宛指定献金を御送付下さい。

こゝにも、世界宣教に貢献する道があります。

本格的なセミナーや研修会も必要でしょう。また国際間の協力や交流も必要になってきます。

JOMAの果す使命も益々大きくなっていくことでしょう。

ご加禱を切に乞うものです。

ところでキリスト者学生会(KGK)から最近「海外宣教の手引き」という便利なマニュアルが発行されました。一部300円で、東京都千代田区駿河台2-1、キリスト者学生会宛申込み入手出来ます。是非ご一読下さい。

今年度もJOMA加盟団体(13)の働きのため、総主事の働きのため続いてご加禱下されば幸いです。

(Y・F)